

睦公民館主催講座

# 江戸時代を再発見

— 移り行く八千代の人々の生活と文化 —

2023年1月13日・2月10日・3月2日開催

昨年大河ドラマでも話題となり徳川家康が礎を築いた江戸時代について、文化・教育（人づくり）・まちづくりの観点から掘り下げていただきました。講師からは、千葉県や八千代周辺に関する話題も織り交ぜてお話しいただき、皆さん多くの再発見ができたことでしょう。



三回目の講座では江戸のまちづくりについて学びました。防犯や防災、特に“火事と喧嘩は江戸の華”と言われたほど重要な課題であった火事対策を取り上げました。

一回目の講座では江戸時代の文化について学びました。江戸時代を支えた百姓、江戸を中心に繁栄した町人文化、千葉県の話題では伊能忠敬を取り上げました。



## ワンポイント講座

### 「寺子屋で最初に学ぶのは…」

寺子屋ではまず「いろはにほへと」を学ぶと思われがちですが、最初に筆使いを習得するために「漢数字」を学ぶのだそうです。

一二三までは横棒の書き方、四になると「止め」、五は縦棒の書き方、八で「払い」を学びます。九(く)になると、横縦・払いの組み合わせとなり、なかなか習得が難しいことから九＝苦、そして完成系としての「十(＝充)」を学びます。つまり、九＝苦を通り越すと、充足して「十」を学び、「十九＝とく＝徳」が生まれます。

徳とは、美しい心を指し、何事においても苦しみや大変なこと(九＝苦)はあるけれど、それを乗り越えることで充足(＝十)し、十九＝徳が生まれるのだと教わります。筆使いの習得から道徳を学んでいたのです。(二回目の講座より抜粋)